

函館・北斗の「健康相談会」に16人 じん肺5件・石綿6件・振動障害6件・難聴5件

函館支部は2月1～3日に北斗市と函館市の5会場で「健康相談会」を開きました。相談者は16人で、じん肺5件、石綿（アスベスト）疾患6件、振動障害6件、騒音性難聴5件の相談がありました。このうち、じん肺で4人、石綿で6人、振動障害で4人が無料検診の予約を入れ、難聴についても3人が順次検査を受ける予定です。1月7～9日の相談会と合わせて23人からの相談を受けました。すでに1月に相談に来た人のうち1人の診断書（振動障害）が出ており、今後さらに診断書が出る見込みです。

なお、この「健康相談会」については、2月1日のNHKニュース（函館局ローカル）で紹介されました。（＝別項）

工事現場で粉じんを吸い込んだことなどによる健康被害に悩む人に対する無料の相談会が函館市で開かれました。この無料相談会は、医療機関や労働組合などでつくる「働くものの道南健康共同センター」が毎年、道南の各地で開いています。函館市の会場では、労働災害への対応に詳しい専門の相談員3人が、工事現場で粉じんやアスベストを吸い込んだことなどによる健康被害の相談に応じました。このうち青函連絡船の機関室で働いていたという85歳の男性は、「機関室には配管などに大量のアスベストが吹きつけられていた。今でもせきが出て、労災ではないかと心配だ」と相談していました。数十年後に健康被害の症状が出ることもあり、工事現場などでの仕事との関連を見過ごされるケースも少なくないということです。主催者によりますと、道南ではこの20年でおおよそ750人からの相談があり、このうち200人以上が労災と認定されたということです。主催団体の鈴木互さんは、「労災申請できるケースもあるので気軽に相談に訪れてほしい」と話していました。相談会は、2日は北斗市で、3日は函館市で開かれます。

釧路の「相談会」に20人

釧路支部は2月3日に釧路市で今年2回目の「建退共・職業病相談会」を開き、午前は6人、午後は14人から22件の相談がありました。相談内容は、振動障害10件、じん肺2件、石綿（遺族）1件、難聴2件、ケガその他2件、建退共5件で、振動障害4人、じん肺1人が受診する予定です。建退共で相談に来た大工さん（50歳）は振動障害の自覚症状が強く、今後そちらもとりくむことになりそうです。

吹雪について「1の日」行動

2月1日、札幌駅南口で「北の鉄道を守る・1の日行動」と「すべての争議解決・1の日行動」が吹雪の中でおこなわれました。争議支援の訴えは、福祉保育労（明啓院・つばさ保育園）と医労連（恵和会）、自交総連からありました。